

診療最前線

生まれた子牛が乳を飲まない…新生子脳症かも？

新生子脳症について、いぶり支所管内のH地区で調査した結果を交えて紹介します。

○新生子脳症とは？

新生子脳症とは、出生後に現れる新生子の神経障害です。子馬ではまれに見られる病気で、「不適応症候群」「低酸素性虚血性脳症」などの名前でも知られています。

子牛では子馬よりも発症の珍しい病気ですが、H地区の過去4年間に出生した2678頭を対象に調査した結果、19例（0・7％）が新生子脳症と診断されました。

○原因は？

はつきりした原因は分かっていませんが、子宮にいる間あるいは分娩中に酸素が不足するような難産、または胎盤の異常によって引き起こされると言われています。

調査でも19例中14例に難産や畜

主の分娩介助が認められました。また、体格の大きな増体系である気高系種雄牛が16例を占め、過大子による難産や分娩時間の延長が要因として考えられました。

○症状は？

脳への酸素の欠乏が生じますので、ぼーっとするまたはウトウトする（写真1）、無目的にうろつく（写真2）、母牛に近づかない（写真3）、吸乳行動を見せないといった症状を引き起こします。

また、初乳を飲まないことで生じた免疫移行不全により、感染症等の合併症を発症する可能性があります。

○診断は？

先天的な病気など他に考え得る病気を除いて、ほとんどの場合は臨床症状から診断することができません。出生後24時間を過ぎても吸乳行動が認められないことは、新生子脳症の兆候と言われています。特に難産だった場合は吸乳行動の畜主のモニターが重要になります。

○治療は？

残念ながら特別な治療法はありません。初乳製剤の給与や栄養補

給など対症療法が基本となります。

調査した19例中1例は合併症により死亡しましたが、残り18例の多くは3日目、長くても6日目には吸乳が認められました。合併症がなければ予後は良好ですが、吸乳しない期間が長引けば、栄養的サポートを数日間要する場合があります。子牛に新生子脳症の症状が見られた場合は、獣医師に連絡してください。

（獣医師・小松勝二）



写真1：安心して寝ている子牛



写真2：舎内をうろつく子牛



写真3：母牛に近づかない子牛